

烏山川

Osan cheon

韓国

烏山川は、ソウル首都圏から約50kmに位置する水原市内を流れる河川
延長29.5km、流域面積153km²の河川です。ソウル近郊の多くの河川と
同様に、烏山川では、1960年代初期からの都市化と工業化に伴い急速な流
域開発が進み、地表面がアスファルトやコンクリートで覆われ、流域の保水

力が弱まった結果、
河川の流量の極端な
減少を招き、河川生
態系の著しい破壊を
招きました。



水量が減った烏山川



再生前の様子（1999年）



再生後の様子（2001年）



駐車場として利用されていた河川空間（再生前）



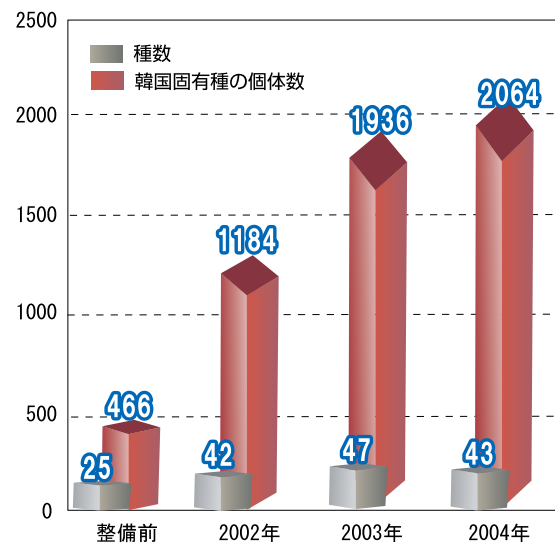
再生後の様子

こうした中、市民の河川環境再生を求める声の高まりを受け、1994年にソウル地方国土管理庁の河川再生モデル事業として烏山川が選定され、1998年から2003年まで再生事業が実施されました。この再生事業では、自然素材による環境に配慮した整備が行われるとともに、駐車場として利用されていた河川内の空間は生態公園へと造成され、また氾濫原内での農業は禁止されました。更に、堤防は緩やかな傾斜に整備され、親水性の向上が図られました。

河川再生事業の後、烏山川の水質はBOD 2～5ppmまで改善され、環境基準を満たすようになりました。地域の住民が都市部の貴重な親水空間として烏山川に集うようになり、また烏山川で観測される鳥類も再生前の25種から43種に増加、個体数も約5倍の2064個体に増加しています。

この烏山川では、再生事業後もモニタリングが継続され、ここで培われた河川環境再生に関わる様々な技術は、2004年の韓国河川法改正後の多くの河川再生事業で活かされています。

鳥類種の増加



飛び石（再生後の様子）



寄せ石（再生後の様子）